

ふれあいたまこ

「ふれあいたまこ」は多摩湖町福祉協力委員会の広報紙です。
年2回(9月・3月)発行し、多摩湖町の全戸に配布しています。

第55号

令和3年(2021年)3月

発行：多摩湖町福祉協力委員会
連絡：Tel.393-3697
(地区長 松本しづ子)

東村山市社会福祉協議会
東村山市野口町1-25-15
(Tel.394-6333)

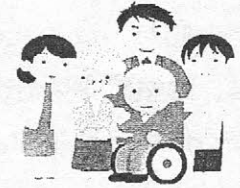
コロナ禍の一年

皆様如何お過ごしでしょうか。昨年は誰もが経験したことのない新型コロナウイルスの感染拡大防止のため全ての面で制約された一年でした。福祉協力委員会も例年行なっています行事は中止になり皆様にお会いする事が出来ませんでした。

「長寿を共に祝う会」の記念品を、お一人おひとりに直接お会いしてお渡しすることを楽しみにしていましたが、それも叶わず配送となり協力員の誰もが残念に思っております。

昨年一年間は何をどうしたらよいか、短時間でも少人数で集まり楽しく、有意義に過ごしたら良いのではと、思ったことは多々ありました。でも皆様の感染症の拡大が頭によぎり、安全を優先して呼びかけが出来ずに申し訳なく思っております。

そういう中、令和2年9月に「ふれあいたまこ第54号」を発刊し、「新型コロナウイルスの感染拡大防止に遭遇して」「地域」「目黒区の船戸結愛ちゃん(5歳)の虐待事件に想う」「宅部の大火」をお読み戴けたことは唯一の成果でした。



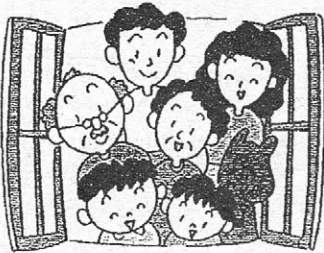
昨年12月に入って第三波の感染は主要都市を中心に広がりを見せ、殊に高齢者や重症者の拡大と医療現場の逼迫、崩壊など先の見えない状況を総合的に判断をして、政府は今年1月8日~2月7日二度目の緊急事態宣言(首都圏の1都3県と新たに7府県)を発出さらに1都3県は3月21日まで延期しました。一人ひとりの感染防止対策と健康管理を遵守することが求められています。

「感染しない」「感染させない」「三密(密接・密閉・密集)の回避」を徹底し、マスクの着用・小まめな手洗いうがい・ソーシャルディスタンスの確保・部屋の換気など励行していききたいと思います。

一方では感染者を受け入れる感染症指定病院など昼夜を問わず献身的に医療行為、診療を行なっている医師や看護師の姿を見て感謝の気持ちを忘れる事はありません。2月17日にはワクチンの接種を開始しましたが、安心安全なものであることを期待して、その先には皆様と元気で、笑ってお会い出来ることを願っております。「必ずできます!」「今を頑張りましょう!」

(松本しづ子)

希望の散歩道



社会福祉協力員のお話をいただいたのは2年半前のことでした。実家まで通い、介護をしていた私は、とてもできないとお断りしました。ですが、できる範囲で無理せずに、手配りの人手がほしい、等丁寧なお声かけに励まされお引き受けしました。まだ大した役には立っていませんが、協力員会の皆様の優しさや誠実さに感動し、支えていただきながら活動しています。

散歩好きの私には、戸別配布の仕事は楽しくできます。代々続いておられるであろう立派なお宅や、季節ごとの花が咲いているお庭、掃き清められている住宅前の道、様々な作物の畑等から、地域の方々の地道な生活態度や真面目さ、心根の優しさが伝わってきます。宅部通りの緑色の安全地帯横断歩道を渡ると明るい気分になります。次々に建つ新築の家の回りで元気に遊ぶ子供達にはつい顔が綻びます。お花の手入れをされている方に出会い、お礼申し上げるといろいろお話を伺うことができます。

バラを作っている福祉協力員のAさんが、「自分の楽しみでしていることを、目にした人が癒されるとかきれいだとか声をかけてくださると、利他の行動になっているのだと知り、なおさら世話に励むことになります」と話してくれました。人の関りは、自然に支え合いを生むのだと実感します。私の周りには他にも、人の為である作業を家事のように続けておられる、感謝し見習いたい方が大勢いらっしゃいます。



コロナ禍は、新しい文明を築く出発点と捉え、私達は、多様性を受け入れ、自然と共生し、個体の免疫力を強化していくことが大切であると知りました。

多摩湖町ではそれを実現する日常があります。(ああ、多摩湖はいい所だなあ。本当に幸せだわ。ありがとうございます。私も生活をしっかり見直し、ささやかでも、自他ともに心豊かになることをしていこう！)

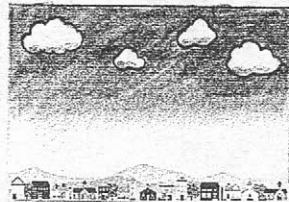
人々が安穏に暮らし、笑顔で挨拶を交わし合い、地域が発展しゆく希望の未来を抱いて、私は今日も散歩を楽しんでいます。

(庄司 由規子)

民生委員・児童委員揭示板 その⑬

コロナ禍の中での活動

第1回目の緊急事態宣言が発令され、私達の生活が一変してから一年が経ちました。地域でのお祭りや行事が中止となり、皆様とお会いする機会は少なくなりました。また、学校行事もほとんどが中止になったため、子供達の活躍する姿も見られなくなってしまいました。



民生委員・児童委員の活動は、会議・研修は6月まで中止、それ以降は規模を縮小して実施。訪問・相談活動については、できるだけ電話か訪問の際もインターホン越しでの対応が求められました。そのような中、ひとり暮らしの高齢者や高齢世帯の方々に下記のチラシを配布しました。

- 夏の「熱中症予防」
- 「お変わりありませんか？」(民生委員の名前、電話番号、メッセージを記載)
- 「寒い季節の過ごし方」(寒い季節も脱水やヒートショック予防、感染対策)

また、電話での友愛訪問も行いましたが、逆に多くの方々からお電話をいただき、「元気です。大丈夫ですよ」との声を聞き、ホッとすると同時に大変嬉しく思いました。コロナ禍にあっても皆様が冷静に受止め、対応され、さすが人生の豊かな経験者と感心しました。

電話での対応をしている中、やはり目と目を見て、顔を合わせて話さなければ本当の思いが伝わらないもどかしさを感じました。

早く安心して皆様と直接お会いできる日が来ることを心待ちにしております。



不安や心配事がありましたら小さなことでもお近くの民生委員・児童委員にご相談ください。

| 氏名 | 電話 | 担当地域 |
|--------|---------------|--|
| 石橋 歌子 | 393-9512 | 多摩湖町1丁目1~30、32、34~37 (第二都営1~7号棟を除く) |
| 浅見 美智子 | 394-8475 | 多摩湖町1丁目31 (第二都営1・2号棟)、33 (第二都営3~7号棟)のみ |
| 神津 道子 | 392-1311 | 2丁目全域 |
| 清水 敦子 | 391-4062 | 3丁目全域 |
| 寺島 晶子 | 090-3402-7000 | 4丁目1~3 (第四都営1~3号棟含む)、30~36 |
| 浅見 桂子 | 391-2154 | 4丁目4~29 (第四都営4号棟含む) |

注意!

!!
コロナに便乗した詐欺電話や「あなたのキャッシュカードが悪用されている。警察に来て」といった不審電話が相次いでいます。常時留守番電話設定にして、犯人との接触をさげましょう。

(浅見 桂子)

多摩湖町を歩いてみる シリーズ⑬

国の重要文化財がたたずむ 北川



北川（上流を宅部川、下流を後川と言っていた）は多摩湖町、野口町、諏訪町へと流れ所沢市からの柳瀬川と合流する3.3kmの準用河川である。流域には下宅部遺跡、令和2年（2020年）9月30日に国の重要文化財に指定された下宅部遺跡出土品、近くの国宝正福寺地蔵堂、国の重要文化財の徳藏寺元弘の板碑、久米川古戦場跡と歴史の宝庫である。

東京市の水不足解消ため村山下貯水池（多摩湖）の建設は大正5年（1916年）に着工し、昭和2年に完成した。湖底となったその最も上流である芋窪村の村山上貯水池付近では石川、下流の下貯水池から東村山にかけての宅部郷（上宅部、下宅部）からは宅部川である。

また狭山村字内堀あたりからゆるく北に折れて東村山村回田に至る谷地は水田が多く僅かに畑地を交えて民家162戸、溜池21泓、寺3軒、神社5社、堂4軒が点在していた。

昭和35年（1960年）頃までは村山下貯水池の完成後北川の源流に変わった十二段からの水や宅部池からの水、狭山丘陵南側通称宅部山（標高103m）の小溪流の水が流れ水量に恵まれた河川であった。兩岸は灌木や草木で囲まれ1m程の淵と浅瀬が交互に並び子ども達の魚捕りと水遊びの恰好の場所であった。魚は豊富で鮒、鮠、鯉、鰻、鱈、ゲバチ、エビガニが生息していた。

昭和35年（1960年）頃以降からは宅地開発が進みトイレの浄化槽からの汚水、家庭の雑排水が大量に流れて水泡ができ白濁となった。30有余年経ったが、ようやく平成6年（1994年）頃より下水道が完備して徐々に浄化され鯉、鱈、ギンブナ、ザリガニが生息出来るようになった。桜並木通りに架かる水道橋の下に平成17年（2005年）に「蛍火の湧き水」を設置して青緑色の鳩のオブジェから湧き水を流す予定であったが、水量がなく清水が出ていないのは残念である。なお、ここ2～3年一羽の白鷺が忘れたかの様に飛来して魚や川虫を啄む姿は心の安らぎとなっている。

（大熊 鎮成）

あとがき

コロナ禍にあり、皆様にお会いできなくなって久しくなりました。それぞれに感染予防に努力なされ、不安な世の中にあっても、創意工夫にあふれた日々を送られていることと拝察申し上げます。ある日、新聞を読んでいたら「メンタル面に栄養を」というタイトルが目に入ってきました。漫画「テルマエ・ロマエ」の作者ヤマザキマリさんへのインタビュー記事です。「コロナ禍の抑制を強いられた状況下では、人は精神的に不安定になり、孤独感、閉塞感を感じたり、またうつ状態になったりと精神的なダメージを受ける。そんなときには本を読んだり、映画を見たり、音楽を聴いたりといったメンタル面の栄養を入れていくことが大事」と語っています。「人間は精神的にも栄養を与えなければ総合的な健康は維持できない生き物である」の言葉が印象的です。コロナ下だけではなく常時メンタル面に栄養を補給することがストレスに強い精神を作ると感じます。この広報紙や福祉協力員会の活動が皆様に少しでも「メンタル（＝精神、心）面の栄養」をお届けできたら本望です。

（神津 道子）

デザイン：田島 徹